

令和8年度 小樽市立菁園中学校 学力向上改善プラン

1 生徒の実態

令和7年度全国学力・学習状況調査における本校の平均正答率は、国語は全国平均を上回り、数学は全国平均とほぼ同値であった。国語では、資料を読み取り、その意図について考える問題の平均正答率が全国平均を大きく上回っていた。国語をはじめ、各教科の授業や学級活動において、より伝わる文章について考えたり、物事を関連付け整理したりする言語活動を教育活動全般で積極的に取り入れたためだと考えられる。一方、記述式問題の無回答率は本校前年度の数値を上回った。学力テストにおける記述式問題の回答率は高いため、「書く活動」を教育活動全体で丁寧に行った結果は表れていると考えられる。数学では、図形の領域で全国平均を上回った。個別最適な授業を目的とした習熟度別学習や1人1台端末によるICT機器の活用によるものと考えられる。

各種アンケートから、家庭学習については、多い生徒と、短時間もしくはほとんどしない生徒の二極化の傾向があり、特に家庭学習習慣が未定着の生徒に対して手立てが必要である。そのためには、(1) 家庭学習を行う目的や目標を明確化させる。(2) 家庭学習を行うための環境づくり。(3) 習慣化するまでの行動の在り方を示す。等の具体的手立てを行うことで改善を図りたい。また、デジタル手帳等を活用した望ましい生活習慣を確立させることが課題である。

2 学年ごとの定着目標（数値目標）

<国語科>

学年	定着目標
1年	・記述式問題の回答率を90%以上にする。
2年	・記述式問題の回答率を90%以上にする。
3年	・記述式問題の回答率を90%以上にする。

<数学科>

学年	定着目標
1年	・基礎的な問題を80%以上解くことができる。
2年	・基礎的な問題を70%以上解くことができる。
3年	・基礎的な問題を60%以上解くことができる。

<学習・生活習慣（家庭学習等）>

学年	定着目標
1年	・毎日70分以上、家庭で学習する60%以上。 ・ゲームやSNSを22時以降しない70%以上。
2年	・毎日80分以上、家庭で学習する60%以上。 ・ゲームやSNSを22時以降しない70%以上。
3年	・毎日90分以上、家庭で学習する60%以上。 ・ゲームやSNSを22時以降しない70%以上。

3 目標を達成するための具体的な方策

(1) 基礎学力の確実な定着を図る取組

- ①読書活動の推進。(朝読書、図書司書との連携)
- ②基礎学力の定着と細かい見取りのための単元テストの実施。
- ③数学科で少人数指導や習熟度別学習を実施。

(2) 確かな学力をはぐくむ授業改善の取組

- ①「書く活動」を教科の授業や学級活動に設定。
- ②ICTを活用した探求場面の設定。
- ③学習規律の徹底および発言しやすい指名の工夫。

(3) 家庭と連携した学習習慣・生活習慣をはぐくむ取組

- ①家庭学習習慣定着への働きかけ。(授業、学級等)
- ②デジタル手帳への入力時間の確保および記録の徹底。
- ③各種通信や保護者会におけるスマホやゲーム抑止の奨励。

(4) その他

- ①デジタル手帳やデジタルドリルの活用による設計力の育成。

4 実施計画

年月日	計画内容
R8年 4月	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル手帳の運用開始と生徒への指導、保護者への説明 ・これまでの(前年度等)全国学力・学習状況調査の調査問題等の実施 ・チャレンジテスト(前年度問題)の実施 ・朝読書の実施(通年) ・放課後学習の実施(通年)
	<ul style="list-style-type: none"> ○R8全国学力・学習状況調査の実施(3学年) ○全国学力・学習状況調査 自己採点
	<ul style="list-style-type: none"> ○標準学力調査実施(第2学年)
5月	
6月	<ul style="list-style-type: none"> ○標準学力調査結果分析
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル手帳を利用した家庭学習の振り返りの実施 ・前期保護者アンケート、生徒アンケートの実施 ・チャレンジテスト(1学期末問題)の実施 ・学校運営協議会の開催 ・夏休みの補足的学習サポートの実施 ・小中一貫教育合同研修会
8月	<ul style="list-style-type: none"> ○R8全国学力・学習状況調査結果分析
9月	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者への調査結果の説明
10月	<ul style="list-style-type: none"> ○学力向上改善プランの評価・改善
	<ul style="list-style-type: none"> ・公開研究会の実施 ・これまでの(前年度等)全国学力・学習状況調査の調査問題等の実施
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル手帳を利用した家庭学習の振り返りの実施
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・後期保護者アンケート、生徒アンケートの実施 ・小中合同学校運営協議会の開催 ・チャレンジテスト(2学期末問題)の実施
R9年	<ul style="list-style-type: none"> ・冬休みの補足的学習サポートの実施
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・研修アンケートの実施 ・学校運営協議会の開催
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・関係者評価委員会の開催
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル手帳を利用した家庭学習の振り返りの実施 ・これまでの(前年度等)全国学力・学習状況調査の調査問題等の実施
	<ul style="list-style-type: none"> ○新学力向上改善プランの作成

5 評価方法

(1) 基礎学力の確実な定着を図る取組

- ①生徒の年間の読書冊数の調査。(アンケート内の設問による)
- ②教科の振り返りににおけるアンケート調査。
- ③数学の各種テストの結果分析。(チャレンジテスト等)

(2) 確かな学力をはぐくむ授業改善の取組

- ①国語の各種テストの結果分析。(学力テスト等)
- ②活動に用いたファイル等の集約。
- ③各種アンケートの実施。(生徒、教員)

(3) 家庭と連携した学習習慣・生活習慣をはぐくむ取組

- ①③各種アンケートの実施。(生徒、教員)
- ②デジタル手帳の集計機能の利用。

(4) その他 ①各種アンケートの実施。(生徒、教員)